

2014年 那覇市文化協会あけもどろ総合文化祭

文化講演

沖縄自立への道

しまくとぅばの復興と自己決定権

ことばは魂 言語は文化遺伝子である

日時／2014年3月24日(月)午後1時半

場所／パレット市民劇場

主催／那覇市文化協会

共催／那覇市、しまくとぅば連絡協議会

後援／沖縄俳優協会、琉球新報社、沖縄タイムス社
沖縄テレビ放送、琉球放送、琉球朝日放送
NHK沖縄放送局、ラジオ沖縄



那覇市文化協会
会長 仲田 美加子

主催者あいさつ

ぐすーよー ちゅーうがなびら
かつて、私たちの祖先は、狭い
国土と過酷な自然環境にあったこ
とからいち早く海外に目を向け雄
飛し、交易を深め、富を蓄積して
来た。その富は文化的な遺産とな
り、見事に花開いている。又、他
との交わりに当たっては、決して

暴力的な行動は起こさず、粘り強く「文化」の力で相互理解を図ってきた。平和を重んじ文化をもって世界を駆け巡る。これは今日の私たちにこそ求められていることではないでしょうか。

そこできょう、私たち沖縄に勇気と誇りと深い愛情を注いでくださっている「佐藤 優さま」に、「沖縄自立への道」にお力添えを頂きながら、「うちなーんちゅぬ思い高々とう」を、最も発進力のあるパネリストの皆様にご登壇頂けることを感謝いたします。

ゆたさるぐとう うにげーさびら

2014年3月24日



しまくとぅば連絡協議会
会長 照屋 義実

共催者あいさつ

私たちの親祖父は千数百年という長い歴史の中で自分たちの言葉を紡ぎ、独特の文化を創りあげてきました。ユネスコの世界遺産となった組踊を頂点にうちなーの文化は現在も脈々と受け継がれています。しかし、この大切な文化の基層をなす「しまくとぅば」は琉球処分後のわずか130年余で消滅の危機に晒されており、保存継承は県民的課題と

なっています。2006年に「しまくとぅばの日」が制定され去年は、初の県民大会が開催され「しまくとぅば復興元年」と位置づけられました。こうした流れの中で今一度「しまくとぅばの復興」がどういうことを意味しているのか、原点に立ち返って認識を共有したいと企画されたのが今回の講演会です。基調講演の主題「しまくとぅばの復興と自己決定権」は沖縄の自立に繋がるというもので、私たちはつい見落としがちですが、沖縄を取り巻く昨今の状況と照らし合わせると納得できるのではないのでしょうか。

シンポジウム「しまくとぅばぬ思い高々とう」のテーマは、大和グチでは「自己同一性」、ウランググチでは「アイデンティティー」、うちなーぐちでは「まぶい・魂」んてい 言やびーん。最後まで 聞こうたびみそーり。ゆたさるぐとう うにげーさびら。

2014年3月24日

パネルディスカッション

「うちなーんちゅぬ思い高々とう！」

パネリスト



宮良 信詳氏
(琉球大学名誉教授)

沖縄語は日本語と姉妹語

和語と規則的な音声対応を示す語が沖縄語では数多くみられる。その規則的な音声対応から、両言語は近親関係にあると想定される。本土方言はこれまでの日本語の移り変わりとの連続性がみられるので、古い日本語とは親子関係が認められる。一方、沖縄語の場合は基本的には千年以上も前の日本語としかつながらないので、両言語は姉妹語の関係にある。その点において、西ゲルマン語派における英独語の関係とかなり似ている。



上原 康司氏
(琉球新報編集局文化部長)

しまくとぅばは基本的には聞いて、話して覚える要素が強いが、記録性という意味では活字媒体の果たす役割も大きい。ただ、その際課題となるのが表記をどうするかだ。カタカナにするのか、ひらがながいいのか、ルビをどこまで振るのかなど、悩む場面は多い。継承のためには統一的な表記法を確立すべきだという意見もあるが、そうすると、しまくとぅばの魅力が失われるとの指摘もある。新聞に何が出来るかを共に考えたい。



宮城＝内海 恵美子氏
(琉球大学准教授)

沖縄自立へのメッセージ

沖縄戦から69年、未だに米軍基地の重圧下にあります。「琉球処分」以来、日本政府は沖縄を仲間として迎え入れたのではなく、軍隊用地や戦場として物のように扱ってきました。しかし、沖縄の人々は「命どう宝」の精神で人権獲得と平和を希求してきました。今、しまくとぅば復興や自己決定権獲得、沖縄自立への道を模索する運動が拡大し、精神の起源にまで意識的関心を構築しようとしております。更にその動きを拡充していくことが大事ではないのでしょうか。



謝花 直美氏
(沖縄タイムス編集委員)

発表趣旨

沖縄タイムスは2013年7月から週刊しまくとぅば新聞「うちなあタイムス」を毎日曜日に掲載している。しまくとぅばを主題にニュースや連載、各地の取組を掲載することで、しまくとぅばの現在を多様な角度から掘り下げている。一部の記事音声もインターネットで「しまぼっど」として公開している。地域のしまくとぅばを紹介することで多様性を可視化させながら、新聞が普及と継承において果たせる役割を模索している。

コーディネーター 崎山 律子氏 (フリージャーナリスト)

【お問い合わせ】 那覇市文化協会 ☎098-861-1909 うちなーぐち部会 ☎090-4347-8798